



「検査データ」から病態に迫る RCPC の奥義を伝授

評者 | 高木 康 昭和大学副学長・特任教授

本書の著者の村上純子先生は、「臨床検査値のウラとオモテ」を理解する数少ない“真の臨床検査専門医”の1人であり、検査値のもつ深い意味を読み解くことのできる専門医です。

RCPC (Reversed Clinico-Pathological Conference) は、1965年に日本臨床病理学会(現・日本臨床検査医学会)関東支部例会で初めて企画され、その時の演者のお1人である河合忠先生(元・日本臨床病理学会会長)が1967年から日本大学医学部臨床病理学教室(現・臨床検査医学)での卒前教育に導入されたのが先駆けです。村上先生はその教室に在籍し、RCPCのノウハウを修得するとともに、この素晴らしい教育技法を全国に普及させたお1人です。

臨床推論能力を培う17のLesson

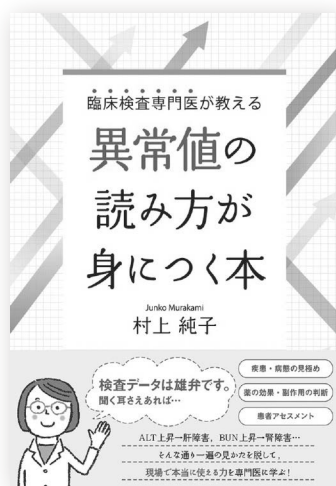
本書は、このRCPCの優れた点を活かすとともに、村上先生が極めたRCPCの奥義を読者に伝授することで、読者は臨床検査異常値の読み方を身につけることができます。本書は「解説の前に」「〇〇検査はどう読む?」「〇〇検査からわかったこと」「この症例の疾患・病態」「プラスαの解説」「まとめ」で構成されています。従来のRCPCにはなかった「解説の前に」には、村上先生のRCPCに対する“思い入れ”があります。「基準範囲」「パニック値」「検査値の推移」「小児の基準範囲」「臨床推論」、そして「臨床検査医」など、そのLessonに合わせた村上流イントロが記載されていて、読みごたえ十分な内容です。「プラスαの解説」には治療や臨床経過、そのLessonでのワンランク・アップ(new heights)の知識を提供しています。

本書は最初から順に読んでも十分な知識を得ることができるのですが、Lesson8と13の「RCPCの実況中継」を最初に読むことをお勧めします。これがRCPCの本懐です。このようなトレーニングを積むことで、最初は初年次であっても、中堅、さらにはベテラン、そしてついには村上先生のような異常値の読み方を身につけていってください。

異常値、チームで読み解こう

現在は「チーム医療」「多職種連携医療」の時代です。医師・薬剤師・看護師・検査技師・放射線技師・理学療法士・作業療法士などの医療スタッフに、本書のご一読をお勧めします。臨床検査データはデジタル情報です。異常値を読み解く能力を身につけて、医療チームでのカンファレンスに積極的に参加し、患者の診療に役立ててください。

G



臨床検査専門医が教える 異常値の読み方が 身につく本

村上純子=著

定価：本体 3,400 円＋税
A5・280 頁／じほう／2018
[ISBN 978-4-8407-5022-6]